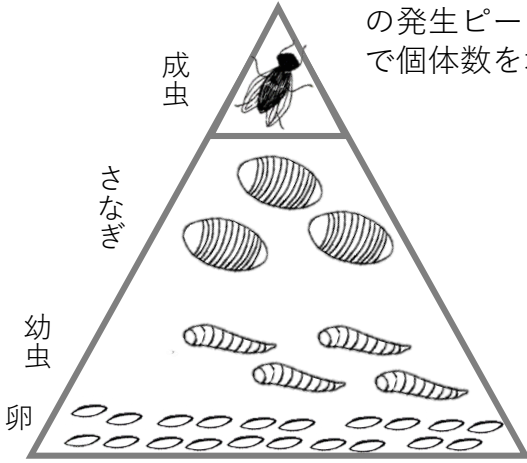


今からはじめる サシバエ対策

家畜にも人にもストレスを与え、牛白血病等の伝染病も媒介するサシバエが農場にもたらす損害は、甚大なものになりかねません。サシバエの発生ピークはお盆～9月頃ですが、対策は5月から開始し、幼虫段階で個体数を増やさないことが重要です。



幼虫で駆除する理由

- 成虫のハエは全体の20%であり、残り80%は卵～さなぎの状態。多い方を駆除した方が効率的。
- 成虫になったイエバエは舐食性（なめる）、サシバエは刺咬性（吸う）のため、成虫のサシバエには、なめさせるタイプの殺虫剤は効果がない。



成虫のサシバエ駆除は、粘着紙が中心となるため、個体数が多いと駆除が困難。

1. 殺虫剤による駆除

幼虫のうちに駆除するには、幼虫に効果のある剤やIGR剤を、ハエのライフサイクルに合わせて、月に1～2回、発生源に噴霧・散布します。発生源は、堆肥盤、バークリナーやスクレーパーが届かず糞がたまる場所、カーフハッチやペンの下などがあります。

また、薬剤抵抗性に対応するため、地域自防組合の巡回で使用される薬剤等も確認し、同一薬剤の連続使用は控えましょう。異なる系統の薬剤をローテーションで使うと良いでしょう。

成虫・幼虫		
使用法	系統/分類	商品(成虫/幼虫)
噴霧・散布	ピレスピロイド系 有機リン系 ピレスピロイド・有機リン混合剤	ヘルトリン乳剤(成/幼)・ETB乳剤(成/幼) スミチオン(成/幼)・ネグホン(成/幼) スミクロール(成/幼)・ウジキラー(幼) など
幼虫		
使用法	系統/分類	商品
散布・噴霧	IGR剤（昆虫成長制御剤） シアナミド	サイクラーテ・ネポレックス シロマジン・ヨモベット 石灰窒素 など

殺虫剤は使用法、濃度等を守って正しく使用の上、使用記録を残しましょう。
 また、殺虫剤使用時は、ゴーグルや手袋、マスクを着用して人体へ影響のないようにしましょう。

2. 殺虫剤以外の防除

- 確実な除糞、堆肥の移動と定期的な（夏は週1回程度）かくはん
 - ※サシバエは最長で4km程度移動が可能のため、発生源を完全に遠ざけることは難しい
- 畜舎周りの雑草を処理し、隠れる場所をなくす